



作曲家 和田 薫さん

昨年10月から放送開始の読売テレビ・日本テレビ系アニメ「半妖の夜叉姫」の音楽を担当。下関市出身の作曲家 和田薫さんをご紹介します。



▲ケルン(ドイツ)でWDRケルン放送管弦楽団を指揮。「作曲した曲を共有できるうれしい瞬間です」

好奇心と探究心 そして行動力で 作曲家に 初めての作曲

下関で生まれ育った和田さんは、オルガンやフォークギターを弾くなど、幼い頃から音楽に親しんできました。

作曲を始めたのは、豊浦高校の吹奏楽部に所属していた時でした。「指揮台に行くと、スコアという全部の楽器の譜面が書いてある大きな楽譜があつて、ちらっと見たときに自分でも書けそうだな、なんて思ってしまったんです」
好奇心で初めて書いた曲を吹奏楽部のみんなで音出ししてみると、イメージする曲で



はなかったそうです。「かっこいい曲をイメージしていたのに、ひどい曲でした。吹いてくれたみんなからも『全然駄目』と言われました。これは勉強をしていないからだと探究心に火が付きました。すぐに、楽器店に行って和声の本やクラシックのスコアなどを買って、独学を始めました」

そして、高校2年生の時に旺文社の全国学芸コンクールに応募した作品が、佳作となりました。「コンクールで手応えを感じました。もっと頑張ろうと思ひ、音楽大学を目指すようになりました」

上京、そして作曲家に

伊福部昭先生の下で学びたいと思い東京音楽大学に入りました。伊福部先生は映画「ゴジラ」のテーマ曲で多くの人の心を捉えた作曲家です。「伊福部先生の曲を聴いて、衝



まちかどボイス

今月のテーマ
挑戦したいこと



◀海峽メッセ下関のオープニングイベントで指揮をする和田さん。



▶「自分の結婚式の時に、妻へのサプライズで、作曲した曲を友人と演奏しました。作曲家あるあるですけど」と照れくさそうに話してくれた和田さん。

撃を受けました。先生からは音楽のこともですが、世界の文化のことなど多くのことをご教授いただきました」
同大学を首席で卒業後、ヨーロッパで活動。帰国後、映画やアニメの音楽を担当するなど、幅広く活動してきました。
1995年には、松竹映画「忠臣蔵外伝四谷怪談」で日本アカデミー賞音楽賞を受賞。読売テレビ・日本テレビ系アニメ「犬夜叉」の音楽も担当しました。最近では、製造過程の日本酒「獺祭」に聴かせる曲「交響曲 獺祭〜磨〜migaki」を作曲しています。「好奇心と探究心を持って行動していた

編集後記

■プラスチックを選別しているところを見せていただき、注射器が入っていたのが衝撃でした。正しいリサイクルが浸透しますように！（ひ）
■写真を撮るときの掛け声。「はい、チーズ」「1+1は？2」「撮ります、3、2、1」「キムチ」「スマイル」たくさんあるようです。（き）
■音楽と日本酒の企画を知り、音が空気等の振動であることを思い出しました。下関の空気が和田さんの音楽で振動する日が楽しみです。（と）

ら、結果として作曲家になっていた」
上京して気付いた下関
1996年には、海峽メッセ下関のオープニングイベントの音楽を担当するなど下関での活動に意欲的な和田さん。
「下関は、歴史的なものや地理的なものなど、題材に恵まれていると思います。特に関門海峡を見渡せる場所が好きです。実家が旅館ということもあり、料理好きなのですが、下関のふくは特別だと思えます。上京して気付きました。下関でも自分の音楽を聴いていただける機会をつくっていきなりたいです」